

5年A漢字「絶」指導対象漢字語候補 語釈・文例集

「教育基本語イ表」や「国字研プリント」、教科書などであつかわれている語について、各種国語辞典から語釈と文例、「国字研プリント」や教科書などからおもな文例をあつめました。検討資料として、似たような語釈、文例をならべています。

本資料に掲載するコトバ

1. 絶対に (26B) 「ぜったいに」、国字研プリント、学習論理語イ
2. 絶対 (25B) 学習論理語イ、批判読み、児言研
3. 絶望 (45A) 国字研プリント
4. 絶体絶命 (38A) 国字研プリント
5. 絶え間 (55A) 「絶え間ない」国字研プリント
6. 絶える (56A)
7. 絶つ (59A) 「連絡を絶つ」
8. 絶ちきる (58A)
9. 絶やす (60A)
10. 断絶 (61A)
11. 気絶 (02A) 「気絶する」
12. 絶句 (12A)
13. 絶交 (16A), 幼児言語
14. 絶滅 (49A) 「絶めつ」
15. 絶景 (13B)
16. 絶好 (17B) 「絶好のチャンス」

() 内の数字は、別資料「語イ表」の50音順整理番号。

A, B は、別資料「語イ表」における概括意味分類。

- 26-01 約束は、**絶対に**守る。(国字研プリント)
- 26-02 ぼくは悪くない。だから、**絶対に**「ごめんなさい。」は言わない。言うもんか、お父さんなんか。(重松清「カレーライス」光村図書5年)
- 26-03 それがかゆしかったから、何があっても**絶対に**あやまるもんか、と心に決めた。(重松清「カレーライス」光村図書5年)
- 26-04 「だって、おまえ、カレーって、ゆうべもおとといも——。」「でもカレーなの。いいからカレーなの。**絶対に**カレーなの。」(重松清「カレーライス」光村図書5年)
- 26-05 仲のよい友達と別れるのは**絶対に**いやだ。(魚住直子「いつか、大切なところ」教育出版5年上)
- 26-06 「大ちゃん。のがすなっ!」「のがしたくないよ。でも、止められないんだ。」「がんばれ、**絶対に**のがすな!」「だめっ、一人じゃ、無理かも。」(阿部夏丸「みちくさ」学校図書5年上)
- 26-07 「努力は**絶対に**裏切らない。常に前を向いていれば、何かが変わると思う。」(教育出版2015年版6年上)
- 26-08 日曜日。バケツはちゃんとありました。くまの子とうさぎの子も、バケツを見にきました。「だいじょうぶ。あしたは、**ぜったい**、きみのものだよ。」くまの子が言いました。(もりやまみやこ「黄色いバケツ」光村図書2011年版2年上)

2. (25 B) 絶対

- [学習論理語イ] 人間の知的活動用語：認識 - 中学
- [批判読み語イ表] 中学2年
- [児言研教育基本語イ] 小学校Aランク
- [阪本教育基本語イ] 小学校高学年第1レベル

ぜったい【絶対】名詞

[絶] ほかとかげはなれてものすごい ← [対] 向かい合う・二つが向き合う

《ならべてくらべるものがない》

《なにものにも制限拘束されなくて、それ自体として存在すること。何の条件にもよらずにあるさま。哲学的な意味では、いっさいの条件を超越してそれ自体で存在する完全な独立的実在をいう。相対に対していう語》(日本国語大辞典)

① ほかにくらべられるものがないこと。(絶対 ⇄ 相対)

「絶対の真理」「絶対の存在」「絶対の地位」「絶対君主」「唯一絶対の神」

② どんな条件や制限もつけられないこと。

「絶対の権力」「国王の命令は絶対だ」「絶対の信頼を得る」「絶対服従」

日本で19世紀につくられた漢語の「絶対」

絶対 the absolute ⇄ 相対 the relative

英語 the absolute 15C ラテン語起源。1610 年代に「absolute in position」（絶対的な地位）から「専制的」という意味でつかわれる。1735 年「absolute monarchy」（絶対君主制）が登場。1809 年から形而上学の用語に。科学的な「絶対値」は 1907 年から。

英語 the relative 14C 後半ラテン語起源。1590 年代に「互いに比較する」という意味で、1610 年代に「他者に左右される。単独で存在しない」という意味でつかわれる。1876 年以降、「相対性理論」の意味に。（Online Etymology Dictionary）

語誌 仏典に見られる「絶待」を「絶対」と改め、absolute の訳語にあてたのは井上哲次郎『哲学字彙』（1881）である。以後、「絶対」は、哲学用語の範囲を超え、学術用語集を含め多くの辞書に収録されて一般化した。（日本国語大辞典）

Absolute 絶対 [按、絶対孤立自得之義、対又作待、義同、絶待之字、出于法華玄義]、純全、全齋、專制 (政)

『哲学字彙』東洋館版 1884 年（国立国会図書館デジタルコレクション）

Absolute 絶対 [按、絶対孤立自得之義、対又作待、義同、絶待之字、出于法華玄義]、純全、全齋、專制 (政)

— Absolute right 純権

Absolutism 專制政治

Relation 關係、相對屬性(論)、綱紀(倫)、戚畹(世)

Relativity 相對 [按、莊子林注、左与右相對而相反、対又作待、相待之字、出于法華玄義釋籤]

『哲学字彙』大槻文彦旧蔵版 1881 年（早稲田大学図書館）

Relation 關係、相對屬性（論）、綱紀（倫）、戚畹（世）

Relativity 相対 [按、莊子林注、左与右相對而相反、対又作待、相待之字、出于法華玄義釋籤]

— Relative conception 相對概念

[注]

『法華玄義』中国隋代の仏教書。10 卷。天台大師智顛（538 — 597）の講説を、弟子の灌頂（561 — 632）が整理して書物とした。593 年成立。

『法華玄義釋籤』前掲の「法華玄義」に対する妙楽大師湛然（711 — 782）の注釈書。

『莊子林注』宋の林希逸が注釈をくわえた『莊子』書。江戸時代によく読まれたという。

絶対 [按、絶対孤立自得之義、対又作待、義同、絶待之字、出于法華玄義]、純全、全齋、專制 (政)

3. (45 A) 絶望

〔国字研プリント〕「絶望するのは、まだ早い。」

〔批判読み語イ表〕小学5年・論理性を確かにし感情の質を高めるもの

〔阪本教育基本語イ〕小学校高学年第2レベル

ぜっぽう【絶望】名詞・ス自（自動詞サ変）

〔絶〕絶ちきる ← 〔望〕のぞみを 《すべてののぞみがたちきられること》

●のぞみがすっかりなくなること。あきらめること。

のぞみのたえること。のぞみをうばわれること。

のぞみを捨てて、あきらめること。希望をまったく失うこと。

まったく期待できなくなること。希望や期待がまったく失われること。

「深い絶望におそわれる。」「絶望のふちに立たされる。」

「自分の才能に絶望する。」「前途に絶望する。」「将来に絶望する。」

「絶望的な算数の成績。」「優勝は絶望的だ。」「絶望的な抵抗をする。」

45-01 絶望するのは、まだ早い。(国字研プリント)

45-02 絶望こそが、人に教える喜びの日がかならず来ると(大槻ケンヂ「さよなら! 絶望先生」)

45-03 だって絶望なんて簡単に知ってたまるか、味わってたまるか…さよなら絶望、絶望(柳沢亮太「さよなら絶望」)

45-04 君が絶望していないことにも絶望してはいけない。(大江健三郎『叫び声』)

45-05 一番の問題は漢字の書きとりで、どれを書きとればいいのかさえ翔は知らなくて、ぼくはひとつとながら絶望的な気持ちになった。(小椋杏『ボクらは旅に出る』)

「絶望」：負の結末のさきを見すえる

類義語・対義語をとおして状況をとらえる

失意	あきらめる	失望	≡	絶望 = 希望	ねがい	可能性	あて	たのみ	
がっかり	気落ち			絶望 = 有望	これからの見こみ	見通し			
落胆	しずむ	消沈	うちひしがれる		念願	願望	ありうべきこと	公算	
うなだれる	しょげる	めいる	気がかり		めど	展望	期待	いのる	念じる

*古典中国語の用例

『春秋左氏伝』(襄公)十四年 「百姓絶望, 社稷無主」

(多くの人民が希望を失い, 国家(社稷しゃしょく)によるべきものがない)

4. (38 A) 絶体絶命

〔国字研プリント〕「絶体絶命のピンチを切りぬけた。」

〔阪本教育基本語イ〕中学校第4レベル

ぜったいぜつめい【絶体絶命】名詞・形容動詞ダ型

【絶体】〔絶〕絶ちきる←〔体〕からだを 《からだを、たちきられること》

【絶命】〔絶〕絶ちきる←〔命〕いのちを 《いのちを、たちきられること》

《体も命もたちきられるような、いきつくところまでいき、どうすることもできない、こまった立場に追いつめられてしまうこと》

●追いつめられて、のがれる方法がないこと。

追いつめられて、どうすることもできないこと。

追いつめられて、どうしても生きる道が残されていないピンチ。

追いつめられて、進退きわまること。

追いつめられて、どうにも逃れようのない状態や立場にあること。

どうにも逃れようのない、差し迫った状態や立場にあること。

もはやどうしても逃れられない苦しい立場。

とうていのがれられない困難な場合・立場にあること。

のっぴきならない場合。

危険や困難からどうしても逃れることができないこと。

きりぬける方法が見当たらないほど困難な立場。

「絶体絶命の危機に立たされる。」「絶体絶命の窮地を迎えた。」

「絶体絶命の苦境に追い込まれる。」「絶体絶命の立場に至る。」

「絶体絶命の苦境におちいる。」「絶体絶命のピンチに立つ。」

「無死満塁、絶体絶命のピンチを迎えた九回の裏。」

「絶体絶命に追いつめられた。」「もはや絶体絶命だった。」

「絶体絶命」：どんな状況になったら使うだろう

リスクのレベルで類義語をわけてみたけれど

絶対絶命Ⅰ	命の危険が	九死（10のうち9分まで死） 危機一髪 剣が峰 瀬戸際
絶対絶命Ⅱ	状況がひどい	この世の終わり 世紀末 地獄 最悪の事態 泥沼の状態 どん底 絶望の淵 絶望の底 絶望の危機 絶望的状况
絶体絶命Ⅲ	手だてがない	もう打つ手がない お手上げだ 手も足も出ない おしまい 何もかも終わりだ 後がない 崖っぷち 命運が尽きる 万事休す 万策尽きた 破綻 八方塞がり 行き詰まり 最大のピンチ 追い詰められた ギブアップ

中国ではつかわれない日本製の4字漢語「絶体絶命」

【絶体絶命】〈日本語での特別な意味〉のがれられないほど、立場・状態がさしせま
っていて危険なこと。(学研漢和大事典)

「絶体」「絶命」はともに九星占いでいう凶星の名。転じて、どうしてものがれよ
うのないせっぱ詰まった場合、立場にあるさまが「絶体絶命」。(日本国語大辞典)

「絶体」「絶命」、そしてこれらをあわせた「絶体絶命」などは、古典中国語の
文献にあたっても、みつけられません。また、現代中国語の辞典でも「絶体絶命」
は「日语」(日本語)と表示されます。

「運がきわまり破滅する星まわり」を「凶星」といいます。「九星占い」は、
もとをたどると中国起源ですが、おそらく「絶体」「絶命」は、日本で独自に使
われるようになったコトバとみられます。

「絶体絶命」の語が文献に登場するのは、江戸時代中期、元禄のことです。いま
につながる落語のコバナシの元祖ともいえる咄本〔はなしぼん〕『軽口露がはなし』
(露の五郎兵衛作、全5巻、1691年)に登場しています。第1巻第17「悪性
の名付親」というハナシです。

「子も**絶体絶命**、爰〔ここ〕なりと息づむひやうしに大きな尻をぽんと
こきたる。」

ハナシの概略は、つぎのようなものです。

もう二十オにもなるのに遊びほうけている息子の六郎兵衛に手を焼いた父親
が、業を煮やして知人をつれて、息子が入りびたっている料理屋へ乗りこんだ。
親父の怒鳴り声を聞いた息子は、あわてて二階へ走り上がったものの隠れる場
所がない。思いあまって天井に隠れようとしたが、腰から下が天井にぶら下が
った状態で発見されてしまった。下で見ていた父親とその知人はあぜんとして
それを見あげ、「(父親)これは何だ?」「(知人)ろくろ首だろう」「(父親)い
や、首がないから、ろくろ尻ではないか」と話す。

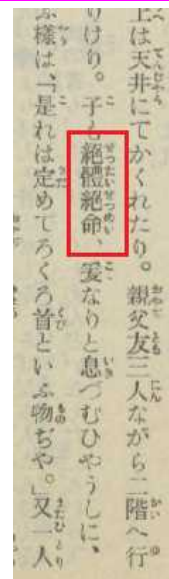
息子は**絶体絶命**。ここが肝心と、体を天井裏に引き上げようとして腕と上半
身に力をこめたら、その拍子に大きなおならが出てしまった。

すると父親が「ろくろ首でも、ろくろ尻でもない。ろくろ尻じゃ。」(息子の
なまえが六郎兵衛ということでオチ!)

(『近代日本文学大系』第22巻、国民図書、1928年；国立国会図書館デジタルコレクション)

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1184601>

このあと浮世草子などにも登場するようになり、庶民に身近なコトバになりま
した。現代でも、歌謡曲の題名や歌詞、アニメのせりふなどに、たびたびつかわ
れています。国語辞典の語釈や、漢字からうける深刻なイメージからかけはなれ
た、かなり軽い印象がこのコトバには、まとわりついているようです。



5. (55 A) 絶え間ない

〔国字研プリント〕「車が絶え間なく通る。」

〔阪本教育基本語イ・旧版〕小学校高学年第2レベル

たえま【絶え間】名詞

〔絶〕絶える（なくなる）→〔間〕時間・空間 《とぎれているあいだ》

*「あいま（合間）」「切れ目」の意の雅語的表現。（新明解国語辞典）

*途絶えること。途切れること。途絶すること。

*多く「絶え間ない」のように下に打ち消しの語がくる。

①とぎれているあいだ。（時間）

絶えているあいだ。あいま（合間）。

つづいている物事のとだえているあいだ。

つづいてきた動作や状態がとぎれているあいだ。

ずっとつづいていたものがとだえているあいだ。

物事がとだえて、次に始まるまでのあいだ。ものごとの中断しているあいだ。

「雨の絶え間に急いで家に向かった。」

②とぎれているところ。（空間）

切れ間。切れ目。

物がとぎれてあいている部分。

広がっているものの、切れている部分。

「雲の絶え間から日がさしてきた。」

「絶え間ない」：時間のことか空間のことか

たえま-な・い【絶え間ない】形容詞ク活用

* 2010年ごろまでは「たえまない」と、かな表記にするのが主流であった。

●ものがとぎれることがない。

途絶えることなく続くさま。休みない。

途中で切れることなく、何かがつづいている状態だ。

「絶え間ない努力。」「絶え間ない進化。」「絶え間ないあこがれを抱く。」

「絶え間なく流れる時間。」「絶え間なく作業を続ける。」

「絶え間なく来客がある。」「絶え間なく音が聞こえる。」

「絶え間なく雨が降る。」「絶え間もなく降り続ける雨。」

55-01 車が**絶え間なく**通る。(国字研プリント)

55-02 絶春にも夏にも、冬の日にも、ノリオはこの川の声を聞いた。母ちゃんの生まれるもっと前、いや、じいちゃんの生まれるもっと前から、川はいつときの**絶え間もなく**、この音をひびかせてきたのだろう。(いぬいとみこ「川とノリオ」教育出版 6 年上, 学校図書 6 年)

55-03 空気は**絶え間なく**大気圏でかき混ぜられ、水は**絶え間なく**固体・液体・気体と形を変えている。(高等学校理科総合)

55-04 これは、地球全体で、しかも長大な時間の中で、**たえまなく**続けられている大地の変動によるものである。(中学校理科)

55-05 発育は全身の細胞の活動によって**たえまなく**進んでいくが、そのようすや速度はからだの各部分によって、さらに個人によって異なっている。(中学校技術家庭)

45-06 **たえまない**戦争のために都市国家はおとろえ、前二十四世紀にセム系のアッカド人によって征服された。(高等学校世界史)

6. (56A) 絶える

〔阪本教育基本語イ〕 小学校高学年第Ⅰレベル

たえ・る【絶える】自動詞下Ⅰ段

【絶える】	【途絶える】	【途切れる】
① つづかなくなる。 「連絡が絶える。」 「通信が絶える。」 「音信が絶える。」 「消息が絶える。」	つづいていたものが切れる。 「連絡が途絶える。」 「通信が途絶える。」 「音信が途絶える。」 「消息が途絶える。」	途中で切れ目ができて あとがつづかなくなる。 「電話が途切れる。」 「文通が途切れる。」 「話が途切れる。」
② なくなる。 「人通りが絶える。」 「交通が絶える。」 「人家が絶える。」	「たよりが途絶える。」 「人通りが途絶える。」 「交通が途絶える。」 「人家が途絶える。」	ゆききが絶える。 「車の流れが途切れる。」 「客足がばったり途切れる。」

絶え間

7. (58 A) 絶つ

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第1レベル

た・つ【断つ・絶つ・裁つ】他動詞5段

一本に続こうとするつながりを途中で切る意。(広辞苑)

【断つ】 つながっていたものを切り離す。やめる。	【絶つ】 続くはずのものを途中で切る。途絶える。	【裁つ】 布や紙をある寸法に合わせて切る。
①物を切りはなす。 縁を断つ。【断絶する】 国交を断つ。【断絶する】 関係を断つ。【断絶する】 快刀乱麻を断つ。《もつれた物事を手際よく処理する》 ②やめる。 酒を断つ。【断酒】 ③さえぎる。 退路を断つ。【切断する】	①なくす。うちきる。 連絡を絶つ。 消息を絶つ。 最後の望みが絶たれる。 ②つながりをなくす。 縁を絶つ。【断絶する】 国交を絶つ。【断絶する】 関係を絶つ。【断絶する】 ③終わらせる。 命を絶つ。 交通事故があとを絶たない。(=いつまでも続く)	生地を裁つ。【裁断する】 着物を裁つ。 紙を裁つ。 裁ちばさみ。

表記「【断つ】①と、【絶つ】②は、「交際・縁・関係・国交・筆・食事」などでゆれが生じる。一時的か永続的かで「思うところがあって一時交際〔筆〕を断つ」「生涯を通じて交際〔筆〕を絶つ」などと使い分ける。「食事を断つ／絶つ」は、「断食だんじき」「絶食ぜっしょく」を踏まえて「食事を断って修行に励む」「療養のために食事を絶つ」などと使い分けることもある。(明鏡国語辞典)

連らくを絶つ

《つながっていた連絡が途中でとだえる》《連絡がとれなくなること》

5801 SOSの発信を最後に**連絡を絶つ**。(明鏡国語辞典)

5802 先月、ロンドンから電話をかけてきた後、**連絡を絶った**。(大辞林)

5803 アレックスに捨てられたサラは、ハイスクール時代の友人たちとの**連絡を絶った**。(バーバラ・デイリー著・井上万里訳『再会は命がけ』2005年)

5804 もし、本社との**連絡を絶たれて**孤立すれば、考えたくもない惨劇が現実となる。(上家富靖『一番大きなお星さん』2001年)

5805 「**連絡を絶やさな**いでくれ」(ジョアンナ・ウェイン著・津田藤子訳『海の歌が聞こえる』2004年)

8. (59 A) 絶ちきる

たちき・る【断ち切る・絶ち切る・裁ち切る】他動詞5段

《すっかり絶つ（断つ・裁つ）》, 《完全に絶つ（断つ・裁つ）》

【断ちきる】	【絶ちきる】	【裁ちきる】
つながっていたものを完全に切りはなす。	続くはずのものを途中で、すっかり切る。	布や紙をある寸法に合わせて完全に切りはなす。
①物を途中で切る。 ロープを断ち切る。 製本する本のへりを断ち切る。【断裁する】 ②すっぱりとすてる。 思いを断ち切る。 未練を断ち切る。 酒を断ち切る。	①なくす。うちきる。 連絡を絶ちきる。 ②つながりをなくす。 縁を絶（断）ちきる。 関係を絶（断）ちきる。 交際を絶（断）ちきる。	生地を裁ち切る。 【裁断する】 紙を裁ち切る。

絶ち切る

5901 江戸切子はともかく、九州の、あの見事な切子の伝統はすっかり**絶ち切れて**しまうだろう。
 (五木寛之『遠い彼方の愛』2001年)

5902 彼ら郷村民たちが勸農権思想の中心的存在として崇敬していた諸堂社の仏神との縁を**絶ち切り**、上下一致して弥陀一仏のもとに結集するきめ手になったとみて誤りなからう。(辻川達雄『蓮如実伝』2004年)

5903 Jリーグの加盟クラブが、企業との“関係”を**絶ち切り**、ホームタウン（地域）との密着を打ち出したのは、新鮮この上なかった。(杉山茂『スポーツマネジメントの時代を迎えて』2005年)

5904 デビュー当時と比べて存在感が薄れた感があるが、今季はそうした流れを**絶ち切る**意味でも重要な意味を持つことになる。(『AUTO SPORT』914号, 2003年)

9. (60A) 絶やす

〔阪本教育基本語イ〕 小学校高学年第1レベル

たや・す【絶やす】他動詞5段

① すっかりなくす。絶えるようにする。≒絶つ。ほろぼす。

「害虫を絶やす。」「はえや蚊を絶やす。」「悪の根を絶やす。」

② 一時的になくす。≒切らす。

なくなったままに捨てておく。なくなったままにしておく。

「伝統の火を絶やさないようにする。」

「花を絶やしたことがない。」

「笑顔を絶やさない。」

「連絡を絶やさない。」

「水分を絶やさないように気をつけましょう。」

「友人らとの知的交流を絶やすことはなかった。」

「古い友人たちとの連絡を決して絶やすまいという約束を守った。」

「人との交流を絶やさないことも非常に大切と考えられています。」

55-01 ワイラー監督は納得するまで撮影をやめない。あせでメーキャップが流れてしまうと、もう一度やり直し。これが何度もくり返されたか、オードリーはもちまへのえがおを絶やさず、へこたれなかった。（「子どもたちを救いたい」教育出版6年下）

10. (61A) 断絶

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第2レベル

だんぜつ【断絶】名詞・ス自他（自動詞・他動詞サ変）

〔断〕ものを二つに切りはなす。＝〔絶〕ものがたち切れてあとがない。

● つながりや結びつきが切れて絶えること。また、それをたちきること。

「国交を断絶する。」「政治と国民の断絶。」

「親子の断絶。」「世代間の断絶。」

「断絶感」

* 古典中国語の用例

『戦国策』(趙策) 趙二「蘇秦從燕之趙始合從」(烈侯)

「故夫謀人之主，伐人之國，常庫出辭断絶人之交，愿大王慎無出於口也。」

(ひとつのコトバが断絶につながるのはつねのこと)

11. (02A) 気絶

〔阪本教育基本語イ〕 小学校高学年第1レベル

きぜつ【気絶】名詞・ス自（自動詞サ変）

〔気〕 ころろのはたらき → 〔絶〕 絶ちきる

● 気をうしなうこと。

一時的に気を失うこと。

一時的に意識を失うこと。

息が絶えること。死ぬこと。

呼吸が止まる。

「ショックのあまり気絶する。」

「激痛のあまり気絶した。」

「気絶してたおれる。」

***失神** 不快な環境、印象などの身体的、心理的な原因によって、顔色が悪くなり、冷汗をかき、意識の一時的障害をおこして卒倒することで、突発的な一過性の発作である。失神は、俗に脳貧血とよばれることもあり、短時間に回復することが多い。

気絶 失神、卒倒のほか、窒息などの仮死状態をも示す広い意味をもったことばである。過労、精神的ストレス、打撲、転落、ショックなどが気絶の原因となりうる。柔道の絞め技による「落ちた」という状態も同様のものである。(小学館『日本大百科全書』)

* 古典中国語の用例

『晋書』(巻75, 列伝第45)「荀崧伝」(じゅんすうでん)

「崧被四創, **氣絶**, 至夜方蘇。」

(荀崧は4か所に傷を受けて**気絶**し, 夜間になってようやく意識をとりもどした。)

12. (12A) 絶句

ぜっく【絶句】名詞・ス自（自動詞サ変）

〔絶〕絶ちきる ← 〔句〕コトバ

●話している途中でコトバにつまること。

話の途中でコトバにつまり、あとが続かなくなること。

何かを言おうとしている途中で言葉につまること。

話している途中で、何かを言おうとしてもコトバがつまって出なくなること。

芝居の台詞〔せりふ〕や演説・朗読などの際に、途中でつまってことばが出なくなる。俳優が舞台上、せりふを忘れてつかえること。

非常な悲しみなどのために声をつまらせること。

「突然の知らせにしばし絶句する。」「思わず絶句した。」

「感情が高ぶって絶句する。」

- 12-01 「でも、ブラッキーがいちばん好きだったのは、やっぱりおじいちゃんだった。おじいちゃんがなくなってから、ブラッキーはめっきり元気がなくなって、食事さえほとんどとらなくなっただけなの。おばあちゃんからその話を聞いて、どこか悪いのかもしれない、こっちに連れてきて、大学の動物医療センターで調べてもらう、って私が言い張ったの。これ以上、ブラッキーまでいなくなったら、って考えて……。」
そこで、ママはちょっと**絶句**した。(梨木香歩「ブラッキーの話」教育出版6年上)

- 12-02 「あたしはこの町内で生れこの町内でそだちました、火事からこっちずいぶん人が変わりましたが、昔から住んでる人はみんな知ってます、ですから町内を悪く云う気持なんかこれっぽっちもありません、それに、子供のことで、よそ者を見ればからかったりいじめたりしたくなるのは、どこでも同じことでしょう、だから町内の子たちが悪いと云うんじゃないんです、ただ——」と、おりつはちょっと**絶句**し、すぐにまた続けた、「ただうちにいる子供たちは、預けられたさきで、厄介者扱いにされたりこき使われたり、いろいろなことがあっていたたまれなかった、どこへいっても親無しっ子、どろぼう、のら犬ってからかわれたり、いじめられたりして来たんです、あたしも、火事でおっ母さんに死なれました、両親もきょうだいもないし親類もありません、ですからあの子たちの気持ちがよくわかるんです、あの子たちがなにより欲しがっているのは人の愛情なんです、人の愛情だけがあの子たちの生きる頼りなんです、それなのに、人から憎まれるようなことをすすんでやるでしょうか」みんなはちょっと沈黙した。(山本周五郎「ちいさこべ」)

- 12-03 ついでだからもう一つ例をあげると、俳優が偶然あるせりふにつまって**絶句**したとする。かようなことは実際の人生には絶えずあることで、むしろむだのない長せりふを順序を違えず一つの脱落もなく、**絶句**もしないで滔々としゃべることこそはなはだしき不自然だといえる。だから**絶句**は自然だといって許しておいたらどういう結果になるかは考えるまでもないことである。もちろんこのことはアクションの場合においても同様である。(伊丹万作「演技指導論草案」)

* 古典中国語の意味

- ①漢詩の近体詩の一種で、起・承・転・結の四句からなる定型詩。五言絶句と七言絶句とがある。唐代に、韻律を整えた近体詩として成立し、律詩とともに典型的な詩形となった。その平仄〔ヒョウウソク〕法が律詩の前半または後半と同じであるところから、「小律詩」とも呼ばれる。(大辞林)
- ②意味にもとづいて文を区切る。(『朱子語類』1270年)

* 《話している途中でコトバにつまること》という語義は、日本語用法。

13. (16A) 絶交

〔就学前幼児の語イ〕 N 児「ぜっこうする」 2 回発話

(4 児による日常生活語の実態：大久保愛・川又瑠璃子の調査，1982 年)

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第 1 レベル

ぜっこう【絶交】名詞・ス自（自動詞サ変）

〔絶〕絶ちきる ← 〔交〕交わり

●つきあいをやめること。

いままでつきあっていた相手と、つきあいをやめること。

交際を断つこと。仲たがいをしして交際を絶つこと。交通をやめること。

仲たがいなどのため、今までの付き合いを断つこと。

「親友と絶交する。」

「級友と絶交する。」

「君とはきょうかぎり絶交だ。」

「お前なんかとは絶交だ。」

「絶交状」「絶交状態」

*古典中国語の用例

『説苑』正諫「故無亡國破家，悖父亂子，放兄棄弟，狂夫淫婦，**絶交**敗友。」

このほか、『白虎通德論』諫諍，『後漢書』朱穆伝などいくつかにみられる。

14. (49A) 絶めつ

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第 3 レベル

ぜつめつ【絶めつ・絶滅】名詞・ス自他（自動詞・他動詞サ変）

〔絶〕絶ちきる = 〔滅〕ほろぼす

①（名詞・ス他）すっかり絶えて、なくしてしまうこと。≡根絶・撲滅

生物やものごとをすっかり絶やして、なくしてしまうこと。

残らず滅ぼし絶やすこと。なくすること。

同類（そのもの）が地球上から姿を消すようにすること。

「交通事故を絶滅する。」

「悪習を絶滅する。」

「害虫を絶滅する。」

② (名詞・ス自) **すっかり絶えて、なくなってしまうこと。** ≡滅亡・壊滅
 生物やものごとがすっかり絶えて、なくなってしまうこと。
 生物の種などが滅びて絶えること。すっかり滅びて絶えること。
 同類(そのもの)が地球上から姿を消すこと。[広義では、その現象が再び
 起こることの無いようにすることをも指す](新明解国語辞典)

「乱獲により絶滅する。」「絶滅の危機に瀕する。」
 「日本のおおかみは絶滅した。」「絶滅寸前の朱鷺 [トキ]。」

③ レッドリストやレッドデータブックで、生物の種を絶滅の危険性の高さによって分類したカテゴリー項目の一つ。すでに絶滅したと考えられる種。
 略号は Ex (Extinct)。(デジタル大辞泉)

環境省レッドリスト 2020 (環境省ウェブサイト)

* 絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
※ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
※ 絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
※ 絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
※ 絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

* 「絶滅」(EX) について以前は「絶滅種」として分類されていた。「絶滅種」とは日本の 1991 年版レッドリストで使用されていたカテゴリー項目の一つ。1997 年版以降では「絶滅」として分類されている。

※ 絶滅のおそれのある種 (絶滅危惧種)

12-01 「白神山地は、計り知れないめぐみをあたえてくれている。絶滅危惧種や白神山地だけに見られる動植物があることから。(「世界遺産白神山地からの提言」教育出版 5 年下)

12-01 「きょうりゅう絶めつのひみつ」を調べて発表する。(「ひみつを調べて発表しよう」教育出版 5 年下)

*** 古典中国語の用例**

『墨子』巻8, 明鬼下「咸恐其腐蠹**絶滅**, 後世子孫不得而記, 故琢之盤盂, 鏤之金石, 以重之。」

このほか、『論衡』感類、『莊子』盜跖など多くにみられる。

15. (13B) 絶景

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第2レベル

ぜっけい【絶景】名詞

〔絶〕 かけはなれてすごい → 〔景〕 けしき

- このうえもなくすばらしい景色。≡絶勝
くらべるものがないほど、美しくすばらしいながめ。
ほかにたとえようもない、すばらしい景色。
非常によい景色。
すぐれた景色。
きわめてすばらしい景色。

「絶景に見とれる。」

「天下の絶景。」

*古典中国語の用例

李白「贈崖公」詩「昔往今來歸, 絶景無不經」

いやな予感の「絶」

たちきる・ことわる

絶望のどん底に落ちる
絶体絶命に追いつめられる
親子が断絶する
友達と絶交する
もうし出を拒絶する

このうえもなくすばらしい「絶」

ほかとかげはなれてものすごい

絶頂に立つ
絶妙なパスでつなぐ
絶大な人気を得る
絶世の美女に会う
この味は絶品だ

16. (17B) 絶好

〔阪本教育基本語イ〕 中学校第1レベル

ぜっこう【絶好】名詞・形容動詞ダ型（古文ナリ活用）

〔絶〕 かけはなれてすごい → 〔好〕 よい

①このうえなく、よいこと。≒最良。

たいへんつごうのいいこと。きわめてよい。

とびきりよいこと。きわめてよいこと。また、そのさま。

物事をするのに、きわめてよいこと

何かをするのに、この上なくよいこと（よいさま）。

あることを行うのに、この上なくよいこと。この上なく好都合であること。

他に比べる物が無いと思われるほどよいこと。

「絶好のチャンスが訪れる。」「絶好の機会をつかむ。」「絶好のタイミング」
「絶好の入門書」

②（日本語での特別な意味）天気や時期が物事をするのに最も適していること。

「絶好の行楽日和だ。」「絶好の遠足日和。」

*古典中国語の用例

『史記』呂不韋列伝「呂不韋取邯鄲諸姫絶好善舞者與居，知有身。」

（呂不韋は、このうえなく舞いが上手な邯鄲〔かんたん〕の舞姫を身受けして同居し、妊娠したのを知った。）

「絶好調!」は「絶好+調」ではなく「絶一好調」
「絶不調!」も「絶一不調」

ぜっ-こうちょう【絶好調】名詞・形容動詞

〔絶〕 かけはなれてすごい → 〔好調〕 調子がよい

●このうえなく好調であること。←絶不調

からだのぐあいやわざなどの調子が非常によいこと。また、そのさま。

体調などが非常によいこと。

体調・気力の充実度などが最高によい様子。

「絶好調を維持する。」「今場所は絶好調だ。」「絶好調な（の）両力士」